

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部・研究科における国際交流方針を策定(設定)する。	→国際交流方針の明示(2013年度までに)。	C	C	C	C	B
2. 策定(設定)した国際交流方針に基づいて、新たな国外協定大学を開拓し、既存の協定大学との新たな展開を図る。	→新規および新たな展開を図った協定大学数(2013年度までに2大学を目指す)。	C	C	B	B	B
3. 全学的な学生交換制度や外国大学プログラムへの参加促進を図る。	→留学生派遣および受け入れ人数。外国大学プログラムへの参加学生数。	B	B	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際交流方針の策定は将来構想委員会(学部)において検討項目としてあげられている。まずは既存の海外協定校との取り組みを充実させるという大枠の了解は得られているが、未だ具体的な方針を示すに至っていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 国際交流方針を明示するには至っておらず、故にその方針に基づいた施策(学生間の交換留学や共同プログラムの実施)についても実績はない。よって、まずは方針の策定が引き続きの検討事項となっている。しかしながら監理教神学大学校(韓国)との教員を中心とした共同研究や日韓シンポジウムにおける参加や招待講演を通じて、教員レベルでの交流は積極的に行われている。学生レベルについては、そういった教員レベルの交流を下地に実施されている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 既存の海外協定校との取り組みをもとに国際交流方針を具体的に検討し、施策を計画・実行する。また、学生間の交流の在り方については新たな展開を模索中であり、現行において実施されている教員レベルの交流を基盤とし、検討を進める。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ベルン大学神学部(スイス)は学術文化交流を目的として学部間協定を締結(1995年度)して以降、近年は2010年度に教員を派遣し、交流の方向性について現地の国際交流担当者との折衝もしている。2011年度には、客員教員2名の招聘も行っている。監理教神学大学校(韓国)については、2010年度に大学間における学生交換協定を締結した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 監理教神学大学校については以前から教員相互の交流実績があったが、学部学生の派遣・受け入れの実績はなく、締結した学生交換協定に基づいた体制の整備が望まれる。また、ベルン大学神学部について新たな展開を検討を行っているが、諸処の事情から進捗をみていない。また教員の交流を通じてドイツやイギリス、またカナダなどの大学との交流も模索されてきたが、交流協定の締結には至っていない。新規開拓においても既存の協定校とともに、更なる検討を継続する。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 既存の協定校については、ベルン大学神学部および監理教神学大学校ともに教員が訪問を重ねており、今後も継続して新たな実績に繋げていく。学生交流については、教員との交流を通して交流の場を提供している。今後さらに進展させ、学生交換協定の枠組みの中での派遣・受け入れ実績をつくるための施策を検討する。新たな試みとしては、ドイツを中心としたヨーロッパの大学が参加する日本キリスト教協議会(NCC)宗教研究所が主催する「日本の諸宗教－研修と対話」(ISJP)プログラムへ教員を派遣しており、そこから派生する教員および学生交流の可能性についても検討する余地がある。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
目標3	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際交流プログラムについては、毎年度の履修指導(オリエンテーション)や掲示・関連冊子の配付等による周知を図っており、どのようなプログラムが存在するかについて、学生間で相応に浸透しているものと考えている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 海外語学研修などのプログラム参加について、引き続き増加傾向にある。2010年度: 英語1名およびドイツ語2名、2011年度: 英語1名、中国語1名、朝鮮語1名、2012年度: 英語2名、ドイツ語1名、インドネシア交流セミナー1名、2013年度: インドネシア交流セミナー1名、英語中期留学1名。日韓神学交流シンポジウム: 3名。2014年度(予定): 交換留学1名、英語研修1名、国際社会貢献活動1名。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 国際交流プログラム参加者が、他の学生の意欲を喚起させることを期待する一方で、留学生受け入れについてもその充実について何らかの方策を検討する。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	2	2	2	2	2	2	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	2	2	2	2	2	2	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	1	0	0	0	1	1	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.7	0.0	0.0	0.0	0.8	0.7	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	0	0	0	0	1	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	1	3	3	3	5	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.7	2.2	2.3	2.3	3.9	—			
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	2	0	0	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	1	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	3	4	4	1	7	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	8.3	9.1	9.0	10.0	9.1	15.4	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

※指標7「国連ボランティア(UNV)の参加者数」は2013年度から国際社会貢献活動参加者を含む。また国連ボランティアは2013年度より国連ユースボランティアとなった。